

第8期芦屋市環境づくり推進会議 ～活動の記録～



イラスト作者：大盛 真絵

まえがき

芦屋市環境づくり推進会議は、芦屋市の環境をより良い方向に導くための活動について、市民・事業者・市が一体になって考え、行動するための中心的な組織です。

推進会議では、今までにも仲ノ池や南芦屋浜、芦屋川・宮川を中心とした活動を行い、その活動の記録をガイドブックとしても利用できる『仲ノ池の自然』、『南芦屋浜の自然』、『芦屋川・宮川の自然』として冊子にしてきました。

第8期の環境づくり推進会議では、活動テーマについて、各委員から、○城山や奥山、高座川の自然の紹介、○仲ノ池の再生プロジェクト、○芦屋川のツルヨシ対策、○子供が自然と親しめる環境づくり、○身近な自然である公園について考える 等の意見が上がりました。この中から、先ずは自然への入門として身近な自然である公園を主なフィールドとして活動していくこととするとともに、その他にもコープこうべとの協同による農業体験や東芦田営農組合の協力による稲刈体験などの活動も併せて実施いたしました。

今回、第8期の環境づくり推進会議の活動の記録をまとめましたので、身近な自然である公園での自然観察や生物観察にお役立てくだされば幸いです。

目 次

まえがき

1. 総合公園

○総合公園で『春』を探そう…………… 1

○潮芦屋ビーチでの生き物探し…………… 4

○総合公園での自然調査…………… 6

2. 仲ノ池緑地

○仲ノ池での自然調査…………… 10

3. 農業体験及び稲刈体験

○農業体験 さつまいもの植付け…………… 14

○農業体験 さつまいもの収穫…………… 17

○稲刈体験…………… 19

4. 委員の感想…………… 22

あとがき

1. 総合公園

総合公園は、芦屋市の南の陽光町に位置し、芝生のグラウンドや陸上競技場などのスポーツ施設、バーベキュー施設、多くの遊具を設置している他、ビオトープ池やせせらぎの小川など市民が身近に自然に親しめることのできる、芦屋市で一番大きな公園です。

また、公園の南には潮芦屋ビーチがあり、海浜植物や磯の生き物を観察することもできます。



推進会議では、総合公園及び潮芦屋において生き物の観察会を実施しました。また、観察会に先立ち総合公園の生き物を調査しました。

○総合公園で『春』を探そう (H27. 3. 31)

参加者 7 名 (大人 1 名, 子ども 6 名)

内容

総合公園 (主にビオトープ周辺) にて, 参加者に春を連想させる生き物を見つけてもらい, 見つけた生き物を委員より解説を行いました。また, 春ということもあり, 草花が開花し色々な色があるということから, 色ごとに生き物を集めて分類してみました。その他, ビオトープ池にセルビンを仕掛け, ビオトープの生き物についても観察しました。

当日, 観察できた生き物は以下のとおりでした。

動物 (魚類) : モツゴ, メダカ

植物 (樹木) : アカメガシワ, アラカシ, オオシマザクラ, クロマツ, シラガシ, ソメイヨシノ, ハマヒサカキ, モッコク, フウ, ボケ, ヤマモモ

植物 (草本) : オオイヌノフグリ, オランダミミナグサ, カタバミ, カラスノエンドウ, ギシギシ, ゲンノショウコ, スイバ, スズメノカタビラ, セイヨウタンポポ, チチゴクサモドキ, ナズナ, ネコヤナギ, ヒメゲンバイナズナ, ホトケノザ, ユキヤナギ, ヨモギ



3 月 31 日ということもあり, もうサクラも満開で非常に気持ちのいいお天気でした。

生き物を探す前に, まずはビオトープにセルビンを仕掛けました。



みんなで、総合公園の中の『春』を探します。どんな『春』が見つかるかな？



色ごとに見つけた植物を分けていきました。



ヨモギなどの食べられる植物も見つけました。



シラガシのような樹木は、落ちている葉を見つけました。



ビオトープに仕掛けたセルビンを引き上げると、いっぱい魚が入っていました。



入っていた魚はモツゴとメダカでした。残念ながら、以前の調査で見つかったエビの仲間は見つかりませんでした。

○潮芦屋ビーチでの生き物探し (H27. 7. 12)

参加者 32 名 (大人 10 名, 子ども 22 名)

内容

潮芦屋ビーチの磯広場にて, 干潮時の潮が引いた時間を狙って磯の生き物探しを行い, 見つけた生き物を解説しました。

解説の後は海浜植物を探しながら, 潮芦屋ビーチのゴミ拾いを行ったところ, 20 分足らずでゴミ袋一つ分のゴミが集まりました。



肌が焼け付くほどの炎天下にも関わらず, たくさんの方に参加いただきました。

最初に古市委員から生き物を探すポイントについて説明がありました。



干潮時を狙って, 磯広場での生き物探しを行いました。

子どもだけでなく, 大人も一緒に生き物探しをしました。



カニが多く捕れましたが、中にはエビを捕まえた人もいました。



磯広場近くの休憩所で、捕まえた生き物をみんなで観察しました。



観察用水槽でみんなでよく見えるようにしながら、古市委員に解説してもらいました。



観察会の後、一旦休憩し海浜植物探しをしながらゴミ拾いを行いました。



暑い中、みんなで一生懸命ゴミ拾いをしてもらいました。



海浜植物を観察しながらのゴミ拾いで、20分足らずで袋一杯のゴミを集めました。

○総合公園での自然調査（H26. 8. 28）

委員のみで実施

内容

「総合公園で『春』を探そう」の前に、推進会議の委員で総合公園の自然調査を行いました。当日観察できた生き物は以下のとおりです。

動物（鳥類）：ハシボソガラス、ムクドリ

動物（昆虫類）：アメンボ、アオモイトトンボ、シオカラトンボ、ハネナガイナゴ、ハネナガヒシバツタ、クサカゲロウ、ヤマトシジミ

植物（樹木）：アメリカデイゴ、エノキ、クヌギ、トウカエデ、ネム、ハマヒサカキ、マテバシイ

植物（草本）：カタバミ、ガマ、キツネノボタン、タカサブロウ、ネコヤナギ



ハシボソガラス



ムクドリ



アメンボ



アオモイトトンボ



シオカラトンボ



ハネナガイナガゴ



ハネナガヒシバッタ



クサカゲロウ



ヤマトシジミ



アメリカデイゴ



エノキ



クヌギ



トウカエデ



ネム



ハマヒサカキ



マテバシイ



カタバミ



ガマ



キツネノボタン



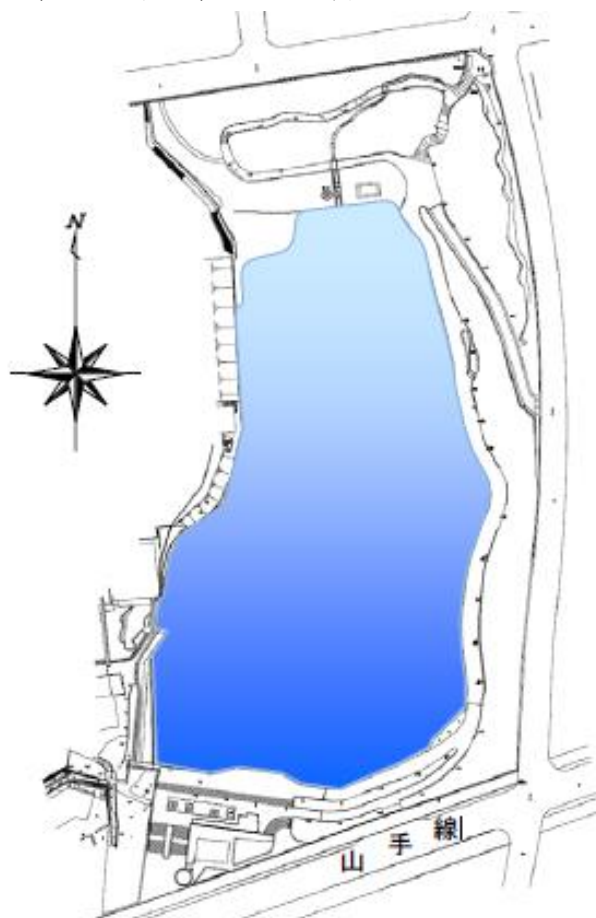
タカサブロウ



ネコヤナギ

2. 仲ノ池緑地

仲ノ池緑地は芦屋市岩園町に位置し、近年の著しい都市化の進展により自然的環境が年々減少し、身近な生き物が姿を消しつつある状況の中、都市に自然を呼び戻し、身近に自然と触れ合える街づくりの拠点となることを目的とした公園です。平成25年度には、仲ノ池の護岸工事のために池の水が排水された機会に、環境調査、環境学習会及び侵略的外来生物の駆除を行いました。



仲ノ池は、南北最大幅約130m、東西最大幅約80m、池面積8,393㎡、水深は満水時で最大約3.2m、池の中央から南にかけて最も深くなっており、池の中央から北の岸側に向かって緩やかに浅くなっています。さらに池の西側より東側の石積みの方が深い傾向にあります。



○仲ノ池での自然調査 (H26. 9. 26)

委員のみで実施

内容

平成25年度に侵略的外来生物の駆除を行って以降、仲ノ池に生息する生物の変化を調べるため、推進会議の委員で仲ノ池の自然調査を行いました。

侵略的外来生物については、以前は多数確認されたブラックバスやブルーギルなどは確認されませんでした。ミシシippアカミミガメは数匹確認されました。

一方、在来生物であるコイやフナの幼魚が多数確認され、平成25年度に実施した侵略的外来生物の駆除により、在来生物が復活していると考えられます。

(※公園緑地課が平成27年6月に実施した調査においても侵略的外来生物は確認されませんでした)

当日観察した生き物は以下のとおりです。

生き物：コイの幼魚、フナの幼魚、メダカ、ヨシノボリの一種、ヤゴの仲間、ヒメタニシ、シオカラトンボ、ミシシippアカミミガメ、カモの仲間



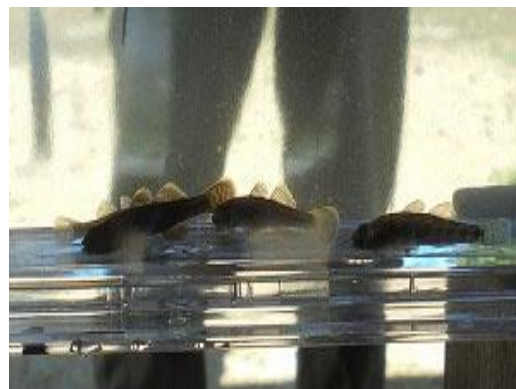
コイの幼魚



フナの幼魚



メダカ



ヨシノボリの一種



ヒメタニシ



シオカラトンボ



ミシシippアカミミガメ

通称：ミドリガメ

【特定外来生物】

※外来生物について

外来生物とは、人間の活動によって海外から入ってきた生物のことを指し、日本の野外に生息する外来生物の種数は、2,000 種を超えるといわれています。

外来生物の中には、家畜やペットのように私たちの生活に欠かせない生物もたくさんいます。一方で、地域の自然環境などに大きな影響を与えるものもいて、これらを「侵略的外来生物」といいます。上の写真のミシシippアカミミガメも本来は日本にいなかった生き物ですが、ペットショップなどで購入した飼い主が飼いきれなくなり自然に捨てた結果、野外で繁殖し、生態系を脅かしています。外来生物に限らず、生き物を飼育する際には、最期まで責任をもって飼いましょう。

注意！

※ 侵略的外来生物のうちミシシippアカミミガメのような【特定外来生物】については、飼育、栽培、保管、運搬、野外へ放つこと、植えること及びまくことが「外来生物法」により原則禁止され、違反者には懲役刑等が課されます。

☆侵略的外来生物による被害を防ぐための3大原則

1. 入れない ～外来生物をむやみに日本に入れない
2. 捨てない ～飼っている外来生物を野外に捨てない
3. 拡げない ～野外にすでにいる外来生物は他地域に拡げない

3. 農業体験・稲刈体験

推進会議では芦屋市内での生き物観察会等の他に、芦屋市外での体験学習も実施しており、その一環としてコープこうべと協同で兵庫県の三木市にある「みずほ協同農園」でのさつまいもの植付け・収穫体験を行いました。

また、兵庫県の丹波市青垣町東芦田においても、東芦田営農組合のご協力により稲刈体験を行いました。

○農業体験 さつまいもの植付け (H26.5.31)

参加者 26名

内容

兵庫県の三木市の「みずほ協同農園」にて、サツマイモの植付けの他、コープの店舗から出る食品くずなどから堆肥を作る土づくりセンターの見学や小松菜の収穫体験を行いました。また、昼食後には、農園周辺の里山の自然観察を行いました。



みずほ協同農園及びサツマイモの植付けについて説明いただきました。



野菜の出荷作業を見学しました。



コープ土づくりセンターで、食物くずから堆肥が作られる様子を見学しました。堆肥になる前は生ごみに似た臭いがするものの、堆肥になると臭いが全くなりません。熟成中の堆肥では発酵が盛んで熱が出るため、直接堆肥に触れなくても分かるほど温かくなっていました。



農園の方からサツマイモの植付け方を教えてもらいました。



各自、自分の畝にサツマイモの苗を植え付けていきました。大きなサツマイモになるかな？



小松菜の収穫体験も行いました。



みんな袋いっぱい小松菜を収穫しました。



昼食後，農園周辺の里山の自然観察に出発しました。



古市委員に解説いただきながら，観察を行いました。



ビオトープでは，何が見つかったかな？



観察後，みんなで見つけた生き物について，解説がありました。

○農業体験 さつまいもの収穫 (H26. 10. 26)

参加者 27名

内容

みずほ協同農園にて、サツマイモの収穫の他、小松菜の収穫体験を行いました。昼食後には、農園周辺の里山の自然観察を行い、春の自然観察との違いを見つけてもらいました。



農園の方から、サツマイモの収穫方法を教えてもらった後、収穫開始！



慎重に、サツマイモを掘り起こしました。



傷つけないように細心の注意で掘っていきました。



見事に、こんなに大きなサツマイモを収穫できました。



昼食後は、春に引き続き、農園周辺の里山の自然観察に出発しました。



春とは違う生き物を見つけられるかな？。



おいしそうなカキがありました。



里山の素朴な自然に癒されました。

○稲刈体験 (H27. 9. 12)

参加者 27 名

内容

兵庫県の丹波市青垣町の東芦田にて東芦田営農組合のご協力のもと、稲刈体験を実施しました。鎌を使って稲を刈り取り、刈り取った稲を束にして干すまでを行いました。また、千歯こきや回転式脱穀機による脱穀も体験しました。

稲刈体験の後は、東芦田の江古花園（ハス田）に移動しました。昼食後にハス田周辺を観察し、ザリガニ釣りをして楽しみました。



大型バスに乗って、丹波市青垣町の東芦田に到着。



東芦田営農組合の芦田さんから稲刈りについての講義を受けました。



鎌の使い方についても、教えていただきました。



講義の後、みんなで横に並んで一斉に刈り始めました。うまく刈れるかな？



刈り取った稲は結んで束にしました。



束を集めて、干していきました。



千歯こきによる脱穀も体験しました。



回転式脱穀機による脱穀も体験しました。



最後にコンバインでの刈り入れを見学しました。20人がかりで1時間以上かかった面積をあっという間に刈り入れる様は、圧巻の一言でした。



稲刈り後、江古花園（ハス田）に移動しました。



昼食後，ハス田付近を観察しました。 観察後は，ザリガニ釣りをしました。



4. 委員の感想

池内 清

今回はより身近なところにある公園にも自然があふれており、そこでの楽しみ方をお知らせしていこうという目論見でスタートしましたが、諸般の事情により、市内については「春の総合公園」と「潮芦屋ビーチ」の観察会だけで終わってしまったのは残念でした。市内には、まだまだ特色を持った多くの公園があり、それぞれの公園なりの四季の楽しみがありますので、また機会を見て市民の皆様に紹介できたらと思っています。

奥 幸二

市外転居の為、2期4年で委員を外れることとなりました。他市に住んでみると芦屋の良さが際立ちます。コンパクトな地域に海、山、池、川、多くの公園、と自然環境は素晴らしいです。四季の自然をご紹介し自然に触れていただく機会を何度も用意いたしました。まずはイベントに参加いただければ幸いです。これを糸口に環境に興味を持ていただければ推進会議委員として喜ばしい限りです。

北中 清史

第8期でのテーマを「身近な自然」として、人が造った人工自然ではあるが、生き物が暮らし、市民生活として親しんでいる自然となっている公園をフィールドとして活動しましたが、第3次環境計画の策定と並行した為もあり、焦点を絞りきれずに、活動結果が中途半端になりました。しかるべき時に再度取り組むテーマであると思います。

私は今回で3期6年間委員を務めました。就任当初からこの会議のミッションは「市民・事業者・行政の3者が協働して、環境に取り組む仕組み・システムの構築」であると考えていましたが、実現出来ずにいました。今回策定された第3次環境計画が「絵に描いた餅」にならないために次期第9期ではこのミッション実現に向けて行動することを期待します。

栗本 光生

幼少の時期より自然から離れ人工物に囲まれた生活を送り嫌な事象を排除するようになると、自然や命など人間が制御できないものについて考える機会が減ってしまうそうです。自然との触れ合いに“インターネットの検索”で感性は培われません。親御様も機会ある毎に子供たちを自然の中に連れ出していろんな体験を持たれんことを切にお願いします。

武内 達明

芦屋に住み18年となります。阪神間の便利な所ということで住み始めたのですが、4年前に当推進会議に参加して、東六甲の標高800m地点から潮芦屋ビーチの0mまで、国立公園を含む自然が多い市域、そこにいる生物を知る機会を持てたのは良かったです。

淀川からの阪神上水道以外の自己水源、奥山貯水池上流では、関西では珍しいブナの観察も出来ました。貴重な水源の奥池地域の自然を、保護する必要を感じました。

芦屋浜ビーチでは、人工の砂浜に生物が復活してきています。仲ノ池では堤防改修に併せて、ブルーギルやブラックバスの外来魚駆除が行われヘラブナが元気に泳いでいます。

今後も、自然を守ることが我々の環境を守るとの観点から、芦屋の自然を見ていきたいと思っています。

服部 雅典

住む町の環境が良くなる事に貢献ができるのであればと思い、「環境づくり推進会議委員」として活動をして参りました。しかし、活動を通して今まで気づかなかった芦屋市の素晴らしい自然環境を改めて発見することにもなり、芦屋市という町の素晴らしい自然環境を再認識した次第です。六甲山麓から芦屋川等の河川沿い、芦屋浜への海浜に至る変化に富んだ自然環境、各々個性のある池や公園。その各所に生息する植物・(昆虫・鳥・魚)動物等、種々の生物を身近で観察できる場所は数少ないと思います。この芦屋市の素晴らしい自然環境・住環境を、市民全員が周知して貰い大切に将来へ守っていければと思います。

半田 孝

今年度は推進会議の行事日が私の勤務日と重なることが多く、皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

この活動を通して、委員の皆様のご尽力によって芦屋市の環境政策が支えられていることがよく分かりました。

次期も委員を拝命いたしますが、できる限り参加したいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

福井 宣昭

この間、芦屋市環境づくり推進会議主催の啓発事業として、コープこうべの施設である「土づくりセンター」と「みずほ協同農園」において環境学習と農業体験を実施いただいております。

コープこうべは環境づくり推進会議に事業者委員として参加させていただいておりますが、くらしを守るという生活協同組合の目的に沿って、行政や地域の皆さんと力を合わせて、今後も環境に配慮したくらしと地域社会づくりに貢献してまいります。

古市 景一

私は第 1 期から関わっていて、今回でやっとお役御免となったが、振り返ると色々な取り組みの思い出がよみがえる。その中で印象に残ったのは、「芦屋市のブナ林」を調査し明らかにしたこと。今期でいうならまず第一は仲ノ池の外来魚の駆除による以前の生物相の一部が復活したことが大きい。また、南芦屋浜の総合調査で人工海岸ながらあしやの海の生物自然にふさわしい環境が整いつつある事実が明らかになったこともある。

この委員会の取組で芦屋の貴重な素晴らしい自然環境が具体的に明らかになり、その保全や活用に展望を開くことができたのを大きな喜びとして、次の世代の人たちに引き継いでいきたい。

前田 晴美

第 8 期推進会議に参加させていただき、委員の皆さまの環境に対する意識の高さにまず驚きました。今回の活動の中で一番心に残っているのは、鎌を使って稲刈体験をすることができたことです。今は機械であつという間にできるようですので。

都会で育ち田舎を知らない私には感動的でした。

第8期芦屋市環境づくり推進会議 名簿（H25.12.1～H27.11.30）

氏 名	団 体 名 等
池内 清	芦屋プロジェクト 2010・芦屋森の会 2001
奥 幸二	市民公募委員
北中 清史	芦屋市子ども会連絡協議会副会長
栗本 光生	市民公募委員
北川 清史	コープこうべ（～H26.6.11）
高田 忠良	コープこうべ（H26.6.12～H27.6.9）
福井 宣昭	コープこうべ（H27.6.10～）
武内 達明	市民公募委員
長井 彦一郎	芦屋川ロータリークラブ 環境問題特別委員会副委員長
服部 雅典	市民公募委員
半田 孝	自然環境等専門的知識を有する者
古市 景一	自然環境等専門的知識を有する者
前田 晴美	市民公募委員
伊田 義信	教育委員会学校教育部長（H25.12.1～H27.3.31）
北野 章	教育委員会学校教育部長（H27.4.1～）
北川 加津美	市民生活部長

第8期芦屋市環境づくり推進会議活動の記録

日 時		日 時	
H25. 12. 26	第 1 回	H27. 1. 28	第 1 1 回
H26. 2. 17	第 2 回	H27. 2. 16	第 1 2 回
H26. 3. 17	第 3 回	H27. 3. 29	第 1 3 回 （総合公園で「春」を探そう）
H26. 4. 20	第 4 回（市内公園めぐり）	H27. 4. 20	第 1 4 回
H26. 5. 31	第 5 回（農業体験（植付け））	H27. 6. 1	第 1 5 回
H26. 6. 12	第 6 回	H27. 6. 13	第 1 6 回（里山体験）※中止
H26. 8. 28	第 7 回（総合公園予備調査）	H27. 7. 12	第 1 7 回 （潮芦屋ビーチの生物探し）
H26. 9. 26	第 8 回（仲ノ池予備調査）	H27. 9. 12	第 1 8 回（稲刈体験）
H26. 10. 26	第 9 回（農業体験（収穫））	H27. 10. 16	第 1 9 回
H26. 12. 15	第 1 0 回	H27. 11. 26	第 2 0 回

あとかき

私達の住んでいる芦屋には地形を生かしたすばらしい公園が身近にたくさんあることが、今回の調査によって改めて発見しました。

皆さんは近所に存在する公園ならば、どんな公園であるのかを良く知っているのですが、隣の町になると、全く知らない公園になってしまいます。市のホームページでも紹介されてはおりますが、なかなか他の公園に足を伸ばす機会は少ないことでしょう。

今期の環境づくり推進会議での取り組みの1つに、芦屋市の公園調査が上げられました。それは市内の色々な公園に行き、その公園は、どんな地形で、どんな植物が生えて、どんな動物や昆虫が生息しているのかを、調査することでした。そして調査の結果は、各公園には、独自の環境があり、その環境によって、それぞれの生態系が存在していることがわかりました。似通った公園は無く、それぞれ個性豊かな緑地なのです。このすばらしい場所を一人でも多くの方に知って頂き、そして興味を持って頂き、その公園を好きになって頂きたいと感じました。

これまでの公園の考え方では、身近に存在する公園は子供達の遊び場というようなイメージで、人が安らぎを得たり、生物が多様化しやすい生息空間では無かったような感じがします。公園とは、ただ遊ぶだけ、体を動かすだけの場所ではなく、その地域に合った利用方法があるのではないのでしょうか。

少子高齢化が進み、何でも手に入る便利な世の中になって来ておりますが、これからの公園は別の在り方が求められる時代になって来ております。その在り方は、市民の皆さん自身がその公園の在るべき形を考え、つくっていくことが必要だと今回の調査で感じました。しかし、そのような魅力的な公園にするためには、市民一人一人に自然環境の必要性を感じていただくことが重要です。そして、事業者と市の協力も必要となります。そのためにも芦屋市環境づくり推進会議は、これからも芦屋市の環境をより良い方向に導くために市民と事業者と市が一体となって、行動し続けることが大切であると思っております。

以 上